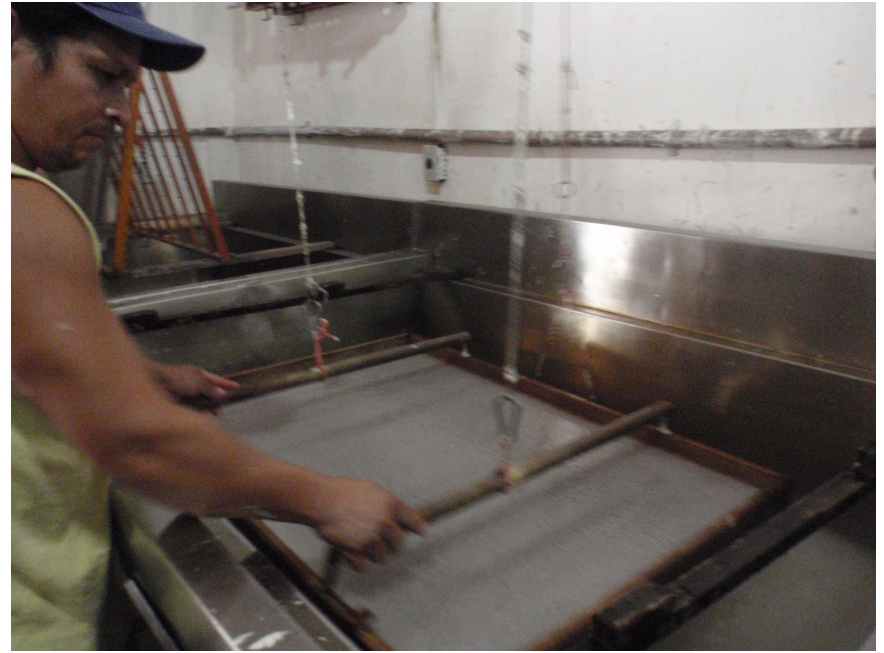


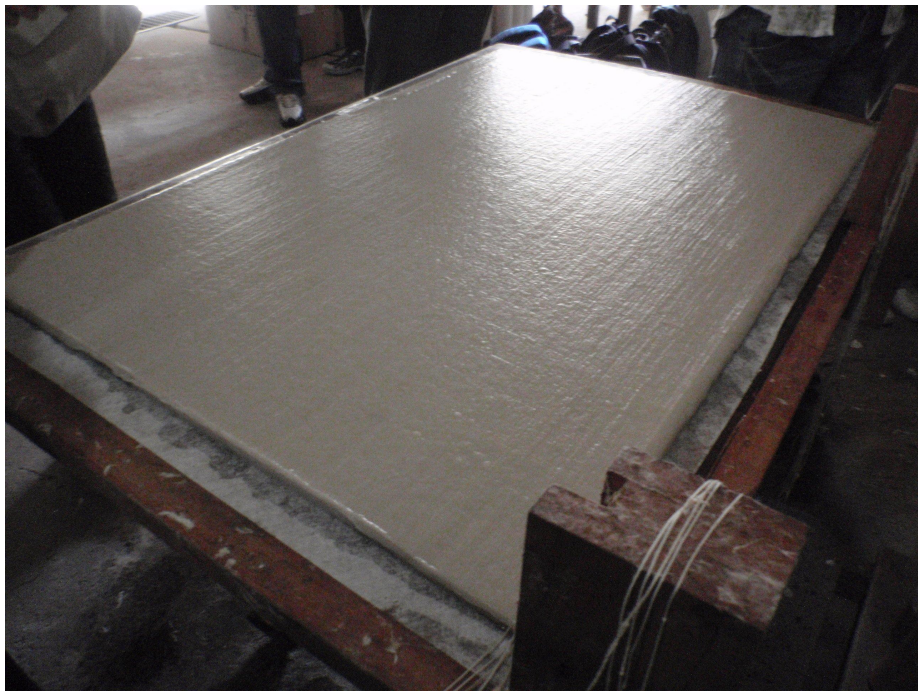






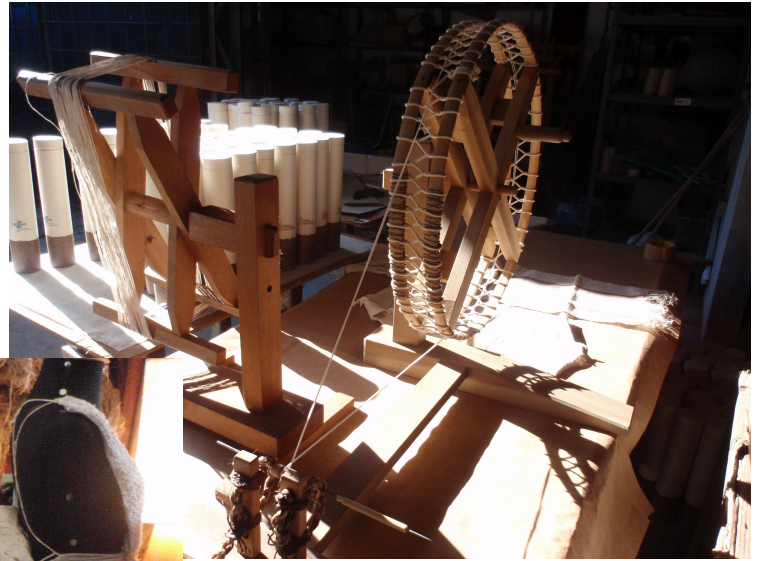


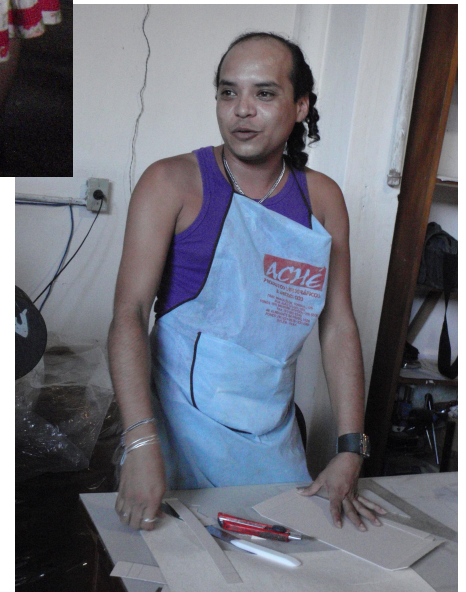












<活動の目的 または 授業のねらい>

ブラジルのアマゾン地域では、森林伐採による環境への悪影響が問題になっている。また、金の採取の際に使われる水銀による環境汚染や、人々への健康被害も問題になっている。森林伐採に変わる、環境に配慮した産業の創出を目的に導入されたのが、日本の紙すき技術である。そして、紙（アマゾンペーパー）で製品を作って販売することで、住民の新たな収入源を確保することを目指している。これは、2005年から2007年まで、「アマゾンペーパープロジェクト」として水俣市が実施した JICA の草の根技術協力事業である。

紙すきの機械や工程は、日本と変わらないが、使われている繊維は現地で伐採され、ゴミとなっていた「クワラ」という植物である。それをベースに、ココナッツやミリチなど、現地の植物をまぜ、さまざまな紙が作られている。また、紙を使った製品も開発されている。職員の一人は、「今まではクワラはゴミになっていた。それが紙になることは知らなかった。当時は職もなかったが、今は家族も養えることができてうれしい。毎日仕事を楽しみ、アマゾンペーパーをさらによくしていきたい。」と話していた。アマゾンペーパーで働く人々の、仕事をしているときの真剣な表情と、同僚を話すときの楽しそうな笑顔が印象的であった。

アマゾンペーパープロジェクトについて知り、そこで働く人の思いや夢を聞くことを通して、

- 私たちの社会をとりまく人類共通の課題を知る。
 - ブラジルに貢献している日本人と日本の技術を知る。
 - 様々な国際協力の方法や人の生き方があることを知る。
 - 自分の将来や進路を考えるきっかけとする。
- ことが、授業のねらいである。

<各スライドにある写真の説明>

スライド1：これは何でしょう？何に使うのでしょうか？

スライド2：クワラという植物です。これまでは、伐採され、ゴミとして捨てられていました。

アマゾン地域には、世界の熱帯雨林の1／3が集中しています。その伐採が環境破壊の原因になっています。また、金を採取する時に使われる水銀による環境汚染や人々の健康被害も問題になっています。森林を伐採せずにアマゾンの資源を活用することで、地域住民の生活の向上を目指そうと取り入れられたのが、日本の紙すき技術です。このプロジェクトを実施したのは、かつて水銀汚染を経験し、その教訓を生かすための取り組みがされている水俣市です。

スライド3：繊維を煮て柔らかくした後、プレス機で1〜2時間たたきます。ココナッツなど、加える植物によって紙の色や厚さが変わってきます。

スライド4：1枚ずつ手で紙を漉きます。

スライド5：簀から紙をはがします。漉いた紙は重ねていきます。

スライド6：紙同士がくっつかないように糸をはさみます。しばらくおいて水分を飛ばします。

スライド7：紙の水分が飛んだら、タピオカととうもろこしを混ぜた水を塗った板に一枚ずつ移し、ローラーをかけます。水を塗るのは、乾いたときにはがれないようにするためです。ローラーをかけたら、日光に当て、乾かします。

スライド8：紙を使って、さまざまな製品を作ります。みんなで分担して仕上げます。

スライド9：アマゾンペーパーで作られた様々な製品です。左上-賞状などを入れる筒 中央上-布と服 右上-糸を紡いで、織った布 左下-箱やレストランのメニュー 中央下-ランプシェード 右下-様々な種類の紙で作られたランプシェード

スライド10：誇りをもって働くアマゾンペーパーの人たち。紙を漉いたり、製品を作ったりする時はとても真剣な表情ですが、同僚とおしゃべりとする時は本当に楽しそうで、笑顔が絶えない職場です。アマゾンペーパーで働く人の話「今まではクワラはゴミになっていた。それが紙になることは知らなかった。当時は職もなかったが、今は家族も養えることができる。毎日仕事を楽しみ、うれしい思いで生きている。アマゾンペーパーをさらによくしていきたい。」